

グラフでみる きょうたんの予算

ご覧いただく際のご参考にしてください。

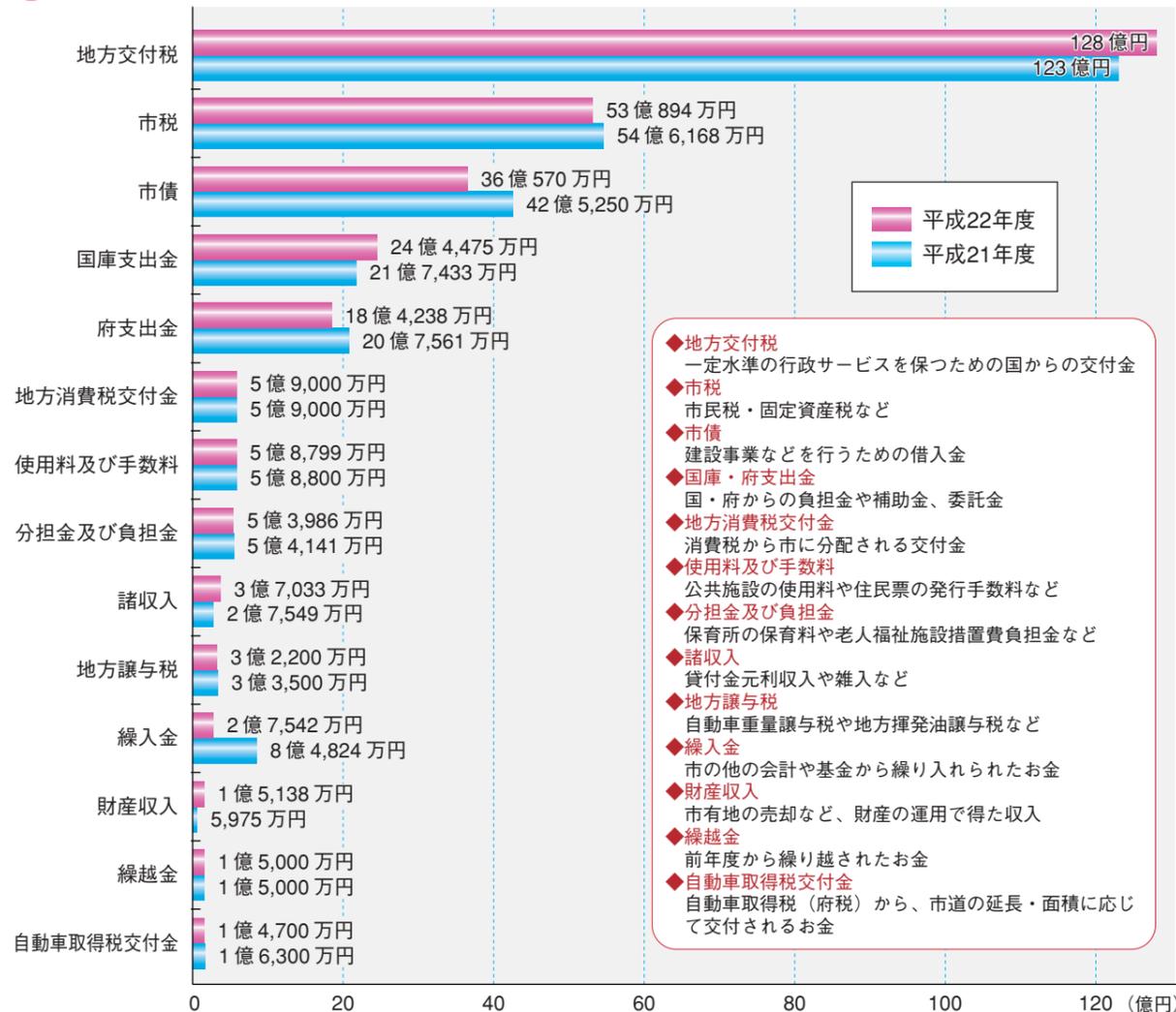
参考

- 市の予算は、「年度」という期間を使っています。
平成21年度とは、平成21年4月1日～平成22年3月31日までをいいます。
平成22年度とは、平成22年4月1日～平成23年3月31日までをいいます。
- 京丹後市の人口は 6万1,592人
(平成22年3月31日現在の住民基本台帳による数値です)
市の借金や貯金の、市民1人あたりの金額を計算する基礎に使用しました。

平成22年度の収入の内訳

市の収入で一番金額の多いものは、国から配分される地方交付税の128億円で、次いで市税が53億894万円、市債（借金のことで、地方債とも呼ばれます）36億570万円の順となっています。

主な収入比較



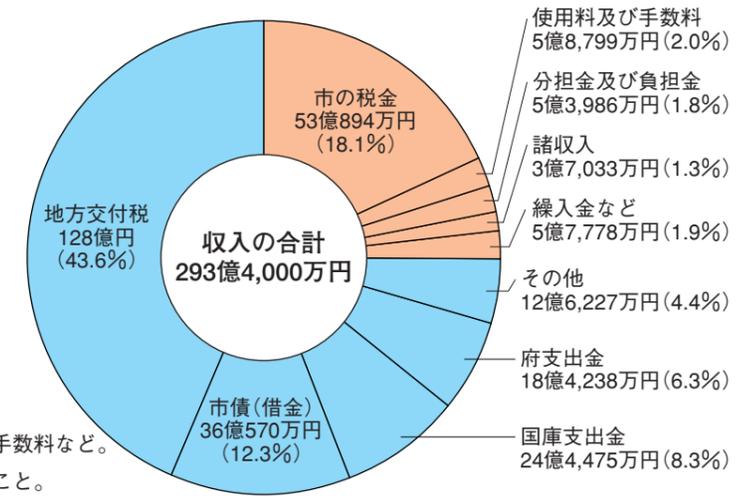
財政基盤を安定させ、市民のニーズに応じた自主性のある行政サービスを提供するためには、一般的に自主財源の割合が高いほど望ましいと考えられています。

市の収入総額293億4,000万円に占める割合は、自主財源が73億8,490万円（25.1%）、依存財源が219億5,510万円（74.9%）となっており、国や府からもらえるお金や借金に頼った収入構造といえます。

収入の構造

自主財源 25.1%

依存財源 74.9%



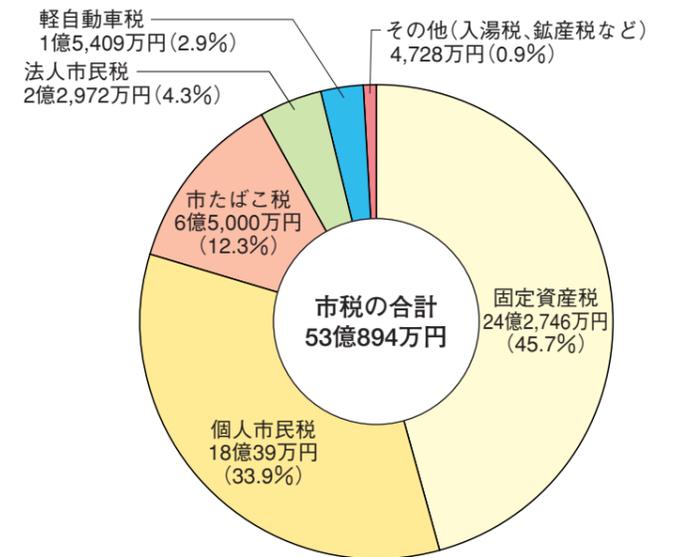
- 自主財源…市が自ら徴収することができるお金。市税や施設の使用料、各種手続きの手数料など。
- 依存財源…国や府から交付されるお金や借金のこと。地方交付税や補助金、市債など。

市税の状況

〈市税の内訳〉

京丹後市の市税は、市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、入湯税などがあります。

市税の内訳をみると、固定資産税が24億2,746万円（45.7%）を占めており、次いで個人市民税が18億3,900万円（33.9%）、市たばこ税が6億5,000万円（12.3%）となっています。



〈市税の推移〉

平成22年度は景気の低迷により市民税が大幅に減少するため、前年度を下回るものと見込んでいます。平成19年度の税源移譲で所得税（国税）が減少し個人市民税（地方税）が増加したことにより、一時的に市税収入は伸びましたが、年々減少傾向にあり、税源移譲前の水準にまで落ち込んでいます。



(注) 平成20年度以前は決算額、平成21年度および平成22年度は予算計上額です。